

第 8 号 卷 頭 言

広島国際大学 教務部長 教職教室主任 笛吹 修治

本学の前教職教室主任の竹田敏彦教授の退職にあたり、急遽、教職教室主任の重責を担うことになりました。教職については殆ど知識がなかったため、まずは改めて昨今の国の教職課程に関する情報を調べてみました。

現状の課題として「グローバル化や情報化、少子高齢化など社会の急激な変化に伴い、高度化・複雑化する諸課題への対応が必要となっており、学校教育において、求められる人材育成像の変化への対応が必要」、また、「いじめ・暴力行為・不登校等への対応、特別支援教育の充実、ICTの活用など、諸課題への対応も必要」の2つの項目があげられています。これを受けて、平成 24 年 8 月の中央教育審議会では「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」の答申が出されました。その中では、教員の資質能力として、

(i) 教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力(使命感や責任感、教育的愛情)

(ii) 専門職としての高度な知識・技能

- ・教科や教職に関する高度な専門的知識(グローバル化、情報化、特別支援教育その他の新たな課題に対応できる知識・技能を含む)
- ・新たな学びを展開できる実践的指導力(基礎的・基本的な知識・技能の習得に加えて思考力・判断力・表現力等を育成するため、知識・技能を活用する学習活動や課題探究型の学習、協働的学びなどをデザインできる指導力)
- ・教科指導、生徒指導、学級経営等を的確に実践できる力

(iii) 総合的な人間力(豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力、地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力)

が示されています。(i)の自主的に学び続ける力や(iii)の同僚や、地域、社会との連携・協働については本学の進める広国教育スタンダードに基づく教育改革の方針とも一致しています。

また、答申の改革の方向性は「教育委員会と大学との連携・協働による教職生活の全体を通じた一体的な改革、新たな学びを支える教員の養成と、学び続ける教員を支援する仕組みの構築が必要」とされています。つまり、教職課程を有する大学に求められているものは、「大学自身の教職課程の改善・充実に向けた主体的な取組が重要」であり、「すべての教員が教員養成に携わっているという自覚を持ち、各大学の教員養成に対する理念等に基づき指導を行うことにより、大学全体としての組織的な指導体制を整備することが重要」であるということになります。

本学においても、教職教室と教科に関する科目の担当教員等が協働し、教職課程を全学的に支援することを目的に、教職課程委員会の小委員会として「教職課程運営委員会」を設置しました。将来の教職センター(仮称)への移行に向けて検討を始めたところです。今後も「教育職員免許法改

正」「再課程認定」「教職課程コアカリキュラム」などのスケジュールが組まれており、本委員会を中心に対処していく必要があります。

これらの改革は、高大接続改革とも連携しており、知識・技能だけの伝達ではなく、如何にそれらを活用して、「自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現する」ための能力や「主体性をもって多様な人々と協働する態度」などの真の学力をもった人材を育てることが目指されています。戦後、学力向上をひたすら目指して発展してきた日本も、予測不能な時代に向けての人材育成が必須となっており、この点においても今後の教師の役割は非常に重要となっています。

本学の教職課程を巣立った学生が、一人でも多く教職につき、数多くの生徒に影響を及ぼしてくれることを願ってやみません。また、常に教育に対して熱心にご指導いただいている本学教職教室の教職員に感謝いたします。末筆になりましたが、本教育論叢第8号にも教職課程に関する教職員や学生の方々から多くの寄稿をいただきました。厚く御礼申し上げます。